

## 質疑

濱田…私の基調報告に続き、行政のお二方と、現場での取組みをされているお三方にお話しただけでした。事例を聴けば聴くほど、ちょっと涙が出てきそうに勇気づけられるお話でした。本来なら視聴されている参加者の皆様と議論をしたり、チャットで質問を受けたりしたかったのですが、時間の関係で、私から事例報告のお三方に補足質問をしたうえで、事前に参加者の皆様からいただいた質問にお答えします。

### 1. 事例報告①に関する質疑

#### (1) 人件費

濱田…細川さん、この事業の予算について、人

件費の問題というお話がありました。結構大変ですか？

細川…事業の初年度は、菜園の備品として仮設トイレ、水ポンプ、草刈り機、収納倉庫など、諸々の準備のために、とりあえず24万円計上しました。そしてトラクターや畑を耕す管理機、ハンマーナイフモア(\*)などの賃借料、他に指導者の方にお支払いする謝金や職員の賃金などを合わせても100万円いかないくらいでした。会員さんが農機具を使う際の安全面も考慮し、職員が立ち会う必要がありますので、この経費を含めると、年間100万円ぐらいは要るかと思います。

(\*) 緑肥作物や前作の残渣を細かく粉砕する機械。スイートコーン

の太い茎も、畑一面に残ったカボチャのツルも、耕作放棄地の背の高い草やぶも、縦に高速回転するフリー刃で粉砕。自走式のタイプと、トラクターに装着するタイプがあり、メーカーによっては後者をフレールモアと呼んでいる。  
農山漁村文化協会「ルーラル電子図書館」『現代農業』「季刊地域」の用語集  
<https://lib.rurafar.or.jp/items/single.php?i=3290> (2022年1月13日閲覧) 246。



細川 奈緒氏

#### (2) 新たな動向

濱田…ご報告にはありませんでしたが、菜園の利用者で、実は新規就農というか、農家になった方がいらっしゃるそうですね。

細川…農家になった方については、私も全然知

らなかつたのですが、指導の先生から産直市に出している方がいるよというお話があり、そこではじめて聞きました。

その方は菜園教室を卒業され、菜園で学んだことを活かし、自分が借りた畑で作物を育て、産直市に出荷しているそうですね。自分たちが思っていたような自主的な活動になっているかと、喜びを感じました。

濱田…介護予防をやっていたら、利用者が新規就農してしまったというすごい事例ですね。なかなか普通の方が農業をしたいといってもできないのに、こういうところをきっかけとしながら、そんなに長い期間ではないかもしれないが、できるというのは素晴らしいことです。確か、子ども食堂も始めたそうですね？

細川…子ども食堂に限らず、菜園の会員さんから、このコロナ禍で困窮している方々への支援として、自分たちの作っている野菜を寄付でき

ないだろうかというお問い合わせをいただきました。そこで担当の部署と連携し、対応させていただきますました。

濱田…そういった支援は、生活困窮者自立支援制度も上手に活用されたということですね。

## 2. 事例報告②に関する質疑

### (1) 農園芸の効果

濱田…石神さんのご報告では「心が動いて、身体が動く」とおっしゃっていました。これは例えば、スタッフが利用者へ「これをしましょう」「体操をしましょう」と指示することではなく、スタッフが利用者へ「何作ります?」「大根。」といったやりとりをするような対応なのですが、とても大切なことだと思います。

石神…「心が動いて、身体が動く」は、職員教育のなかで、私たちの法人の理念や方針を伝える時に何回も繰り返し言っているのです、そうい



石神 洋一氏

は狭いところに閉じ込められ制限されているという感覚は少ないかなあ…。そういう意味では、だいぶ落ち着いた雰囲気だと思います。

今も要介護5の認知症で、ずっと動いている利用者の方がいらっしゃいます。スタッフはひたすらその方に付き添い、その過程で畑に出たり庭に出たりしています。場面を変えるにも、畑や自然があるのは、スタッフにとっても助かっていると思います。

う意味で伝わっていると思います。

農園芸は、高齢者の介護予防や介護において「好きだからやる」という分類です。仕事としてやらねばならないというものではありません。

また、農園芸は体を動かすから、ぜひ訓練のために行きましょう、というのではちょっと意味合いが変わってきてしまいます。

スタッフには、利用者にはお好きなものを選んでくださいねという感覚で農園芸にお誘いしましょう、と伝えていきます。

濱田…農園芸に取り組むと、認知症の方も普通のデイサービスセンターより穏やかだったりしますか？

石神…はい、そう思います。うちの場合、利用者さんは敷地内で自由に動いていただいています。道路に出ると危ないので出ていかないようにしていますが、利用者さんにとっては割と開放的で、自由に居場所が選べることもあり、要

### (2) 費用面

濱田…レイズドベッドもそうですが、あれだけの施設には結構お金がかかります。それからスタッフの数をみると1日7、8人入っている。普通の施設なら5、6人で行うところですが、何か助成金を受けているのでしょうか？

石神…助成金はなく、自分たちで賄っています。工夫しているのは、利用者の方から毎回、毎利用時に、活動材料費として200円いただいていることです。毎月延べで450〜500人の利用があるので、月9〜10万円ぐらいになります。それをレイズドベッドや土や肥料や苗などの購入に充てると、割と採算は取れます。

ただ、やはり人手はかかっているので、スタッフを少数精鋭にするために、全員がインカム（トランシーバー）を使って連絡を取り合いながら、施設の内外すべてに目配りをしながら、声掛けあって頑張ってもらっています。ITも

活用しながら、色々と工夫しています。

濱田…ある意味、最先端なデイサービスセンターですね。

### 3. 事例報告③に関する質疑

#### (1) 関係各課との横の連携

濱田…矢野さん、事業はお一人で始められたと思うのですが、町役場の内部は当初どんな様子でしたか？

矢野…これは私一人で始めたわけではありません。上司が理解を示し、町長、副町長などが陣



矢野 雄二氏

頭指揮を執ってくれました。そして組織横断で取り組んで行こうと関係各課と調整をはかり、色んな話がスムーズにできたと思っています。

濱田…この取り組みは、普通だったら事業計画を作り、予算を組むのですが、実はそうっていないのです。会議的な形で始まったのですね。

トップに理解があり、さらに上司も理解があるというお話ですが、そういう理解があると、いちいち下から上げていくのではなく、実際に取り組みながら調整し、上に報告していくことで進んでいくという感じですか？

矢野…そうですね。実際は現場で気づくことも多いです。小さい町であるがゆえに、小さい町の利を活かし、関係各課が横の連携を非常によく取ってきたことが成果につながったと思います。

濱田…まさに、農福連携地域包括ケアシステムの取り組みですね。

## 4. 参加者からの質問

### 【質問1】

農福連携というと、農業と福祉と連携することというイメージだったのですが、今回のテーマである高齢者の農福連携も、障害を持った高齢者が対象となっていますか。

(県庁)

濱田…今まで農福連携は障害者の取り組みでしたが、おっしゃるとおり今回のテーマには、障害を持った高齢者の方々が含まれています。

日本では福祉サービスが年齢で分けられ、対象者毎に分かれていますので、障害者から取り組みはじめたのですが、要介護認定の高齢者もそういう意味では障害のある方たちです。また障害があると言っても、単なる障害者でなくて、自分たちでできることがあるわけです。そう

いった方たちの取り組みということになります。

### 【質問2】

先進事例を参考に、経済事業として持続可能な取り組みにするには、具体的にどのようなやり方がポイントになるのか、教えてください。

(労働者協同組合)

濱田…香美市社協さんの場合は、介護予防ケアマネジメント(第1号介護予防支援事業)を上手に活用し、元々あった予算を使って行いました。但しそれは市からの受託事業なので、市から委託しないと市からの困ることになります。ですが逆に、香美市社協さんは非常に提案力があるので、次々に新しい取り組みを考えて、更に予算をつけてもらえないかと思っています。

石神さんのところは、もともとデイサービスセンターの介護報酬と、お話にもあったように、

利用者から活動材料費200円をいただいで取り組んでいます。でも私としては、行政から助成金や報酬などを出してほしいと思います。

越知町も、実際に集配に行っているのは集落支援員の方、総務省予算です。それから中大平のシールをデザインしたのは、地域おこし協力隊の方です。つまり既にある制度を上手に活用し、組織の縦割りの部分を全部つないで取り組んだということです。

そういう意味ではお三方とも経済的には事業の継続性についてはクリアされています。

\* \* \* \* \*

僕本当はわいわいやるのが好きなのですが、またぜひこのような機会を設けたいと思います。

事例報告者の皆さんには、これからも取組みを進めていただきたいと思います。このセミ

ナーで報告をしたということは、たぶんこれから有名になって、色々なメディアにでたり、講演されたりすることも増えるのではないかと、いう予感もしていますので、ぜひパイオニアとしてけん引していただければと思います。

本当にお忙しいなか、またコロナ禍にお越しいただきましたまして、ありがとうございます。

